緑化だより

No.212　令和７年１・２月合併号

コアカミゴケ

○ 季節の花（ア　シ（葦））
○ 水生昆虫の話（アミカ類）
○ 小さな世界こけ（ジャゴケ）
○ 研修会のご案内
○ お知らせ・ご案内
○ 展示会

ひろしま遊学の森
広島県緑化センター
〒732-0036　広島市東区福田町 10166-2
TEL 082-899-2811　FAX 082-899-2843　URL https://ryokka-c.jp
広島県緑化センター二次元コード

季節の花

ア シ(葦)

「若の浦に 潮満ち来れば 潟(かた)を無(な)み
葦辺(あしへ)を指(さ)して 鶴(たづ)鳴き渡る」
作者　山部赤人　　万葉集 巻6－919

これを訳しますと
(若の浦に潮が満ちてくると、干潟が無くなり、そこにいた鶴が一斉に飛びたち、
葦の生える岸辺に向かって、鳴きながら、飛んで行くことよ)

亀神(じんき)元年(724 年)、聖武天皇が紀伊の国へ行幸されたおり、紀の川を下るときに同行した山部赤人が、葦が生い茂り広々とした岸辺に群がる鶴の姿を目にして詠んだ歌です。

和歌の浦は現在の和歌山市西南部の海岸です。

アシはイネ科ヨシ属の多年草です。北海道～九州の淡水と海水が混ざる汽水域の干潟、湖沼などの湿地に自生し根茎は地中をはって大群落をつくります。背丈は 2～3m、花期は9～10 月頃で淡紫色の穂を出します。

太田川のアシ群生地

もともと「あし」という呼び方は平安時代まで使われていましが、「悪し」にも通じるために反対語の「良し」の名が使われるようになりました。

昔から神話の中には、アシが生い茂り、稲穂が穂を実らせる「豊葦原瑞穂国(とよあしはらのみずほのくに)」と言われ、日本の原風景でした。

人々は ヨシの茎で屋根をふき、垣根、ヨシズ、燃料、肥料、新芽を食料として利用してきました。

昭和 30 年代にヨシズの生産が栄えた頃は丈夫なヨシを作るため「ヨシ焼き」がありましたが、今では人々の生活の変化で利用しなくなりました。 近年、ヨシ原は水中汚染のチッソ、リン酸を吸収して水質を浄化する作用があることが分かり、最近では地域の生態系やその貴重性が見直されて、ヨシ原の再生が各地で行われています。古い時代から受け継がれてきた日本人の心を大切に残していきたいものです。(上村)

ア シ

水生生物の話

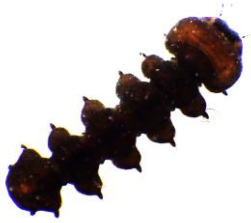
アミカ類

一年で最も寒い季節。その多くが春に羽化する川の中の水生昆虫の幼虫たちは、この時期が一番大きく育っているので、観察するにはまさに絶好の時期が今だったりします。

川辺には雪が積もるような山地渓流で、滝のような水が流れ落ちるような場所にある苔むした岩のそばで岩にぴったりくっついている小さな黒い粒粒のような姿の水生昆虫を見つけることがあります。この小さな虫は、環境省により指定されている 29 種類の「指標生物」のうち、水質階級Ⅰできれいな水の環境に生息するハエや蚊(カ)などと同じ仲間の「アミカ類」です。
今回はこのアミカ類についてご紹介します。
アミカ類は山地渓流の生き物で、現在日本では 20 数種が見つかっているそうですが、まだ未分類の種もあり、まだまだ研究途中のようです。

写真のアミカは、同じ場所で見つかった個体ですが、よく見るとちょっと違う形状をしていますので、見比べてみると違う種類であることがわかります。

アミカ1



アミカ2

アミカ類の幼虫は、水底の岩や水しぶきがかかるような滝の岩の壁面にはりついています。幼虫の体長は 4.1～7.3 ㎜で、各節の背面にはトゲやイボがある種類も多いです。

写真のように、体の裏側に強力な吸盤があり、流れのはやい渓流の岩や滝の壁面にしっかりと吸着しています。指の上にのせてみると、ピタッとくっつくのでちょっと面白いです。

体裏面の吸盤

幼虫の間は、岩の表面に付着した藻類やその他の有機物などを食べています。春が近くなると、岩の上で小さな丸っこい蛹になり、4-5 月に羽化する種が多いですが、中には夏に羽化する種もいます。

成虫は、ちょうど中型のガガンボのような姿をしています。

この寒い時期が、観察できるチャンスとなりますので、足元に気を付けながらぜひ探してみてはいかがでしょうか？？(西村)

小さな世界 こけ

ジャゴケ

ジャゴケは前にも何回か取り上げましたが、巳年に因みまた取り上げてみました。

ジャゴケ

ジャゴケは、タイ類ゼニゴケ目ジャゴケ科で雌雄異株。葉と茎の区別がない葉状体で、湿った土壌や岩を這うように広がります。繁殖力の強いコケで他のコケの上から覆いかぶさるようにして伸びて広がります。

葉の幅は 1～2 cm、長さは 15 cmにもなる大型のコケです。

背面はツヤあり、多角形のうろこを並べたような模様があります。この模様をヘビのうろこに見立てたのが名前の由来です。

腹面は仮根が発達し、基物にしっかり張りついて広がってゆきます。

ジャゴケの葉

雄株は、4 月頃から葉の先にこげ茶色で楕円形の雄器托をつけます。雄器托には柄がなく、ブツブツとした楕円形の雄器床が目立ちます。

雌株は、12 月頃から作り始めた雌器托が 3～4 月に立ち上がります。透明で 3～4 cmの長さの柄の先に円錐形の雌器托をつけ、笠の下に黒っぽい胞子のうをつけます。(山根)

ジャゴケの雄器托

ジャゴケの雌器托

研修会のご案内

○ 1月25日(土)『なめこ植菌教室』　10:00～12:00　学習室 集合
～家庭栽培に挑戦しよう～
講師：日本きのこセンター
※要予約(キャンセル待ち)、材料費700円　三次支所長 影井 和男

○ 2月 2日(日)『クマノザクラ講演会』　10:00～12:00　学習室 集合
新品種クマノザクラの発見者の先生をお迎えして、
日本のサクラやクマノザクラについての講演会
申込み不要
講師：国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所九州支所 産官学民連携
推進調整監　勝木 俊雄

○ 2月19日(水)『ジャンボ椎茸植菌教室No.1』　10:00～12:00　学習室 集合
～家庭栽培に挑戦しよう～
講師：日本きのこセンター
※要予約(先着20組)、材料費800円 (1/4 9:00～予約開始)　三次支所長 影井 和男
第1回、第2回の両方に参加することはできません

○ 2月22日(土)『ジャンボ椎茸植菌教室No.2』　10:00～12:00 学習室 集合
～家庭栽培に挑戦しよう～
講師：日本きのこセンター
※要予約(先着20組)、材料費800円 (1/4 9:00～予約開始)　三次支所長 影井 和男
第1回、第2回の両方に参加することはできません

○ 3月 1日(土)『早春のバードウォッチング』　10:00～12:00　学習展示館前 集合
散策しながら野鳥を観察します
講師：日本鳥類保護連盟
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止　三次地方分会事務局長
衛藤 慎也

○ 3月 8日(日)『針葉樹の見分け方』　10:00～12:00学習室集合
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぼう
講師：森林植物研究家
※自由参加・無料、ルーペ持参　垰田 宏

♪☆ お知らせ・ご案内 ☆♪

※ 緑化センター1月の休園日は12月29日(日)～1月3日(金)です

レストハウスは 年末・年始は
12月28日(土)～1月3日(金)休業します

◎展示会

場所：レストハウス
(ボード展示)

第8回ひろしま遊学の森
「四季の移ろい」写真コンテスト作品展
1月4日(土)～1月25日(土)

令和6年度 広島県緑化ポスター
原画コンクール入賞作品展
2月1日(土)～2月28日(金)